



平成18年8月15日発行



北海道 国際理解教育研究協議会



会報 第64号



会長 池田 幸一



事務局長 後藤 宏



「韓国の小学校英語教育」

北海道国際理解教育研究協議会
会長 池田 幸一
(札幌市立新陵東小学校長)

文科省は、世界の人々と共存して生きていくために小学校英語教育は避けられないと考え、今年度末までに改訂を行う学習指導要領の中で、小学校英語教育の取組の内容を明記する方向で検討を進めている。

6月、韓国の教育事情を視察する機会があった。日本の小学校英語教育を考える参考に、韓国の現状を報告したい。

韓国政府は、1995年、急激に進む国際化に対応するために小学校段階での外国語教育を正規の教科として取り入れることを提案した。この背景には、韓国は資源のない国であるため、激化する国際競争に勝つためには人を資源と考え、英才教育、能力別指導、情報教育、外国語教育などに力を入れ、教育により人材育成を行い国力を高めることを目指す考えがある。

政府教育部は、1997年、新学習指導要領を告示し、2000年以降、3年生から順次英語教育を導入することを決定した。しかし、1997年、3学年から順次導入を行い、2000年には6学年まで全学年が導入となり、計画が早く実施された。

新学習指導要領における英語教育の取組は、全体として基本的な意思疎通能力の習得を掲げ、小学校では音声教育を重視している。小学校の目標は、英語に興味関心を持たせ、基礎的な英語を理解し、表現力を養うことである。

内容は、音声言語を中心として、文字言語は音声言語の補助手段として使用する。3年生は、「書くこと」「話すこと」のみ。4年生から、「読むこと」が、5年生から、「書くこと」が入る。学習する基本語彙は、各学年80～120単語が決まっている。

学習形態は、達成度に応じた、能力別授業を行う。授業時間は、現在、全学年週2時間（1時間40分）である。英語教育に力を入れている学校は、英語の教科書に頼らず、独自にカリキュラムを作成し、レベルの高い指導を行っている。

指導は、担任が行うことを原則として1997年までに5万2千名の現職研修を実施し、外国人教師の採用、英語専攻の学生の採用、中学の英語教師を配置するなどして実施している。近年、韓国南部の光州地区では、英語教育を進めるために、トイック（TOEIC）の点数が600点以上の学生が教員として採用されているとのことである。

韓国で英語教育が盛んになっているのは、就職試験で英語力が求められ、英語ができなければ大企業や公務員に採用されない現状がある。日本でも、すでにこの傾向は現れている。日本の小学校英語は、どのように進んでいくのがよいのだろうか。

平成18年度

北海道国際理解教育研究協議会事業計画

1. 基本方針

21世紀を生きる北海道の子どもたちに、国際社会に貢献できる日本人としての資質を育成する国際理解教育の在り方を探る。

- ・ 学校教育における国際理解教育の在り方を、主に授業を通して深める。
- ・ 新しい教育改革の流れの中で、国際理解教育の果たすべき役割を探る。
- ・ 各地区との交流を深め研究交流を推進し、その成果を各地区の国際理解教育に生かす。

2. 事業内容（教育研究団体として北海道の教育に貢献する。）

- (1) 全道大会を開催し、研究成果を交流する。
- (2) 研究成果の交流のため、「研究集録」や「研究紀要」を発行する。
- (3) 「会報」を発行し、研究の成果や情報を交流する。
- (4) 地区との連携を密にし、組織を強化し、研究内容を深化するとともに各地区の研究推進に協力する。
- (5) 派遣教員と帰国教員に対し、研修会を開催し、それぞれ支援する。
- (6) 国際理解教育に必要な各種資料を収集し、インターネットでの情報提供や交流を行う。

3. 今年度の重点

- (1) 第27回北海道国際理解教育研究大会 胆振・苫小牧大会の成功を図る。
 - ・ 教育研究団体として会員の資質向上と研究の深化を図る。
 - ・ 北海道の国際理解教育の向上に努める。
- (2) 各地区に密着した各地区の研究の深化と交流を図る。
 - ・ 研究主題を共通の窓口としながら、各地区の主体性を発揮した研究を推進する。
 - ・ 各地区や時代の要請を生かした研究を進め、会員の意識の向上を図る。
 - ・ 帰国教員の貴重な体験を各地区の教育に生かす。
- (3) 総合的な学習の時間における国際理解教育の在り方を探る。
 - ・ 総合的な学習の時間における国際理解教育の在り方を積極的に実践し、各地区に広げる。
- (4) 小学校英語活動についての取り組みを進める。
 - ・ 小学校英語活動の在り方を各地区で研究研修をもとに実践を積み、研究大会などで交流を深めよりよい英語活動の進め方を探る。

平成18年度 北海道国際理解教育研究協議会

【 役 員 名 簿 】

顧問 石田 省子 (第6代会長)

顧問 高橋 承造 (第8代会長)

顧問 山内 武道 (第7代会長)

顧問 眞木 孝輝 (第9代会長)

会長 池田 幸一 (札幌市立新陵東小学校校長)

副会長 本間 英昭 (函館市立亀田中学校校長)

副会長 中村 仁昭 (羽幌町立焼尻中学校校長)

副会長 齊藤 順一 (日高町立日高小学校校長)

副会長 青山 信一 (標津町立標津中学校校長)

副会長 加賀 政治 (小樽市立花園小学校校長)

副会長 辻口 徹 (札幌市立藤の沢小学校校長)

監査 石橋 壽春 (美幌町立東陽小学校校長)

監査 射守矢秀治 (蘭越町立蘭越小学校校長)

理事 中村 恒司 (苫小牧市立光洋中学校校長)

理事 豊田 收 (乙部町立乙部中学校校長)

理事 大津外志男 (岩見沢市教育委員会指導室長)

理事 堀 光明 (利尻富士町立鴛泊小学校校長)

理事 村瀬 正貢 (釧路市立新川小学校校長)

理事 清水 博 (石狩市立南線小学校校長)

理事 金子 良子 (帯広市立若葉小学校校長)

理事 黒田 仁志 (上磯町立久根別小学校教頭)

理事 田山 裕 (名寄市立下名寄小学校校長)

【事務局】

事務局長 後藤 宏 (札幌市立二条小学校校長)

次 長 白石 邦彦 (札幌市立清田小学校校長)

次 長 佐野 聡恵 (岩見沢市立北真小学校教諭)

次 長 石塚 信彦 (美唄市立南美唄中学校校長)

次 長 橋本 直樹 (岩内町立岩内第一中学校教頭)

次 長 中村 淳 (札幌市立北の沢小学校教頭)

次 長 坂元 修 (苫小牧市立緑陵中学校教頭)

次 長 齋藤 吉文 (札幌市立上野幌小学校教頭)

次 長 高木 司 (旭川市立忠和中学校教諭)

次 長 古里 和雄 (札幌市立手稲中央小学校教頭)

次 長 笹木 卓三 (帯広市立第一中学校教頭)

次 長 森 雅彦 (札幌市立簾舞小学校教頭)

次 長 桜田 弘道 (置戸町立秋田小学校教頭)

次 長 澤田 崇 (札幌市立幌北小学校教諭)

次 長 大森 信 (釧路市立春採中学校教頭)

次 長 小島 雅人 (恵庭市立柏小学校教頭)

庶務部長 横川 隆 (札幌市立白石小学校教諭)

庶務副部長 吉田 英明 (札幌市立手稲東中学校教諭)

庶務部員 池田 健人 (苫小牧市立緑陵中学校教諭)

会計部長 箭内 浩之 (札幌市立真駒内曙小学校教諭)

会計副部長 澁谷 宣和 (札幌市立伏見小学校教諭)

会計部員 大城 亮二 (旭川市立永山中学校教諭)

広報部長 福田 栄喜 (札幌市立平岸小学校教諭)

広報副部長 松本美樹子 (札幌市立富丘小学校教諭)

広報部員 野中 利晃 (帯広市立花園小学校教諭)

組織部長 廣島 直 (札幌市立美しが丘緑小学校教諭)

組織副部長 木下 智 (札幌市立栄町中学校教諭)

組織部員 山本 和浩 (釧路市立駒場小学校教諭)

研究部長 石原 和人 (札幌市立元町小学校教諭)

研究副部長 小野 博史 (札幌市立東山小学校教諭)

研究部員 井上 博文 (札幌市立南が丘中学校教諭)

研究部員 岩村 鋭介 (札幌市立藻岩南小学校教諭)

研究部員 島田 裕文 (札幌市立白石小学校教諭)

研究部員 向井 秀樹 (旭川市立広陵中学校教諭)

研究部員 河井 義徳 (幕別町立白人小学校教諭)

研究部員 中原 秀雄 (釧路市立鳥取小学校教諭)

研究部員 菅原 敏明 (北見市立小泉小学校教諭)

研究部員 傳法 大祐 (室蘭市立鶴ヶ崎中学校教諭)

研究部員 杉原 将貴 (北広島市立広葉中学校教諭)

研究部員 小泉 寧 (岩見沢市立清園小学校教諭)

研究部員 小野 篤夫 (岩見沢市立光陵中学校教諭)

平成18年度

北海道国際理解教育研究協議会 夏の学習会

第8次研究の推進に向けて

北海道国際理解教育研究協議会
事務局・研究部・部長

1. 基本方針

児童・生徒が「自分の生き方」に誇りを持ち、自分の未来と地球の未来に対して責任を担うことができる生き方を創造する場としての国際理解教育のあり方を明らかにしていく。

2. 平成18年度の研究推進 《 第8次研究 2年次 》

自ら地球にひらき、未来を切り拓く 児童生徒の育成

「ネットワーク」した社会につながる
「自分」つながる



自己の確立

地球と共に行動する
人々と共に解決の道を歩む



未来のために行動する

平成17年度・石狩大会

「思いから交流、発信から行動へと向かう学びづくり」

異文化に慣れ、異文化に触れることに喜びを感じた子供たちが、その思いをどのように行動として表すか、仲間との関わりの中でどのように問題を解決していくかを実証的に探求する。

- 子供の実態や変容をとらえ、人とのかかわりを実感させる授業作りをどう進めるか
- 国際交流や国際協力などを通じた教材作りをどう進めるか
- 学習のサイクルを確立し、地球市民として価値ある解決の方法としてどう行動に結び付けていくか

平成18年度・胆振大会〔苫小牧市〕

「つながり、ひろがりを感じ、 自ら課題を解決しようとする学びのあり方」

平成18年9月14日（木）・15日（金）

3. 今年度の研究推進の重点

国際理解教育の実践は、仲間との共同研究により焦点化されていく。全道の仲間とともに「地球市民」としての生きかたを求め、子供たち一人一人の生きる力を育む場としての国際理解教育のあり方を追究していく。

17年度は、子供の実態や変容をとらえ、人とのかかわりを実感させる授業作りを進め、地球市民として価値ある解決の方法としてどう行動に結び付けていくかを研究してきた。

18年度は、石狩大会の成果を踏まえ、さらに学校を子供が未来を学ぶ場として地球にひらき、子供一人一人が地球市民としての自己を確立し、どう行動していくかその過程を引き続き研究することにする。

① 第8次研究「自己を確立させる学びの場として国際理解教育の確立」

- ・「地球を教える」から「地球とともに」歩む学びの確立
- ・「行動する」意味を追究し、子供の意識を行動に結び付けていく授業づくり

② 小学校における「英語活動」について

これまでの研究で、「小学校における英語活動」は、国際理解教育の手立てとして有効であることが確かめられた。また、そのためには、英語を異文化ととらえ、「担任の教師が教えるなど」「音声を大切する」など基本的な取り組みも確認された。

石狩大会では、各地区から「小学校英語活動」についての実践が交流され、それぞれ地区、学校に合わせて進められていることが確認された。

18年度は、各地区の研究を踏まえながら、研究部の提案している年間指導計画の方向に沿った実践の交流をさらに進めていく。

③ 研究の活性化の手立て

* 地区研究との研究交流

- ・年3回の機会をとらえ研究担当者会議を開き、各地区の研究や全道大会に向けての意見を交流したりする。

- ①夏の学習会 胆振地区
- ②全道大会 苫小牧市 平成18年9月14日・15日
- ③冬の学習会 札幌市 帰国報告会を兼ねて

* 研究部会を月1回程度開催し、研究を推進していく。また出席の難しい部員については、メール等で内容を知らせ、交流していくようにする

4. 研究日程

7月	・夏の学習会・研究担当者会議① (胆振地区) 内容：大会に向けての授業作り	・大会に向けての準備
8月	・全国大会(8月1日2日 姫路市)	・大会に向けての準備
9月	・全道大会(胆振地区 苫小牧市) 9月14日(木) 15日(金) ・研究担当者会議②	・大会に向けての準備
10月		・胆振大会の反省
11月		・19年度研究の方向性について
12月		

1月	・冬の学習会・研究担当者会議③ 内容：18年度研究のまとめ 19年度研究方針の決定	
2月		・網走地区との研究協議
3月		・網走地区との研究協議

胆振・苫小牧大会 課題別分科会 一覧

分科会名	第1分科会		第2分科会	第3分科会
テーマ	教室を地球にひらく国際理解教育の計画と実践		国際交流や国際協力を通じた国際理解教育の実践	外国語活動を通じたコミュニケーション能力を育む国際理解教育の実践
分科会場	小学校	中学校		
提言者	美瑛町立美瑛小学校 堀内 隆功 教諭 岩見沢市立北真小学校 越山 真史 教諭 北見市立上常呂小学校 佐藤 文昭	札幌市立常盤中学校 五十嵐直幸 教諭 壮瞥町立久保内中学校 辻村 裕子 教諭 音更町立下音更中学校 高橋 幸紀 教諭	札幌市立川北小学校 菅井留美子 教諭 江別市立大麻中学校 佐藤 貢 教諭 苫小牧市立豊川小学校 松本 憲子 教諭	札幌市立平岸小学校 福田 栄喜 教諭 苫小牧市立清水小学校 一谷 浩之 教諭 北海道教育大学附属 釧路中学校 森島 克久 教諭
助言者			白老町教育委員会 主幹 小笠原 常雄	苫小牧市教育委員会 指導主事 高橋 慎治
司 会 運 営	苫小牧市立美園小学校 教頭 奈良 秀夫	苫小牧市立啓北中学校 教頭 及川 信道	苫小牧市立和光中学校 教頭 平沼 秀之	苫小牧市立明野小学校 教頭 反保 秀規
記 録	苫小牧市立日新小学校 教諭 小保内知博	苫小牧市立明德小学校 教諭 紺野喜美恵	苫小牧市立拓勇小学校 教諭 石尾 知子	苫小牧市立明德小学校 教諭 松永 香織

ご意見・ご感想・情報

をお寄せください。

北海道国際理解教育研究協議会

E - mail kokusai@hokkaido.777.ac

道内、国内、海外を問わず情報を事務局までお寄せください。また広報についてのご意見、ご感想もお待ちしております。

各地区における活動状況、実践報告、研究推進、各国の情報等を文書と画像も添付してお送りください。変換後、順次、広報に掲載して参ります。

たくさんの情報をお待ちしております。

発行 北海道国際理解教育研究協議会広報部
会 長 池田 幸一（札幌市立新陵東小学校長）
事務局長 後藤 宏（札幌市立二条小学校長）
広報部長 福田 栄喜（札幌市立平岸小学校）